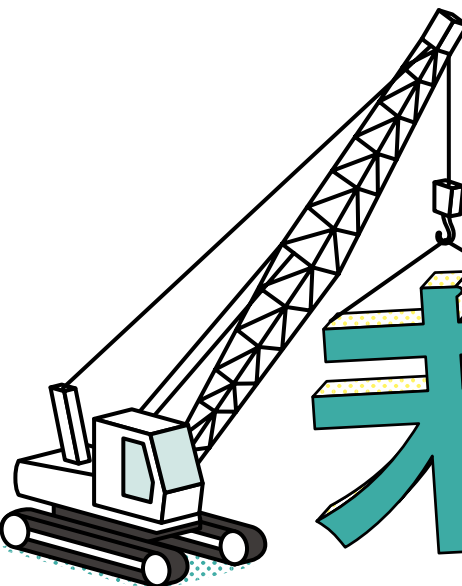


思い描く 未来が ここにある



日本建設機械工業会とは

About CEMA

日本の建設機械産業の健全な発展を図り、日本経済の発展と国民生活の向上に貢献することを目的としています。

主要事業

経営高度化委員会
経営の高度化

運営委員会
円滑な事業運営

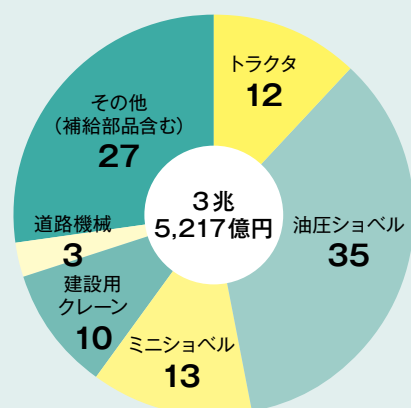
国際委員会
グローバル展開の支援

技術製造委員会
環境、安全、その他技術的課題への対応

流通サービス委員会
健全な流通・サービス基盤の整備

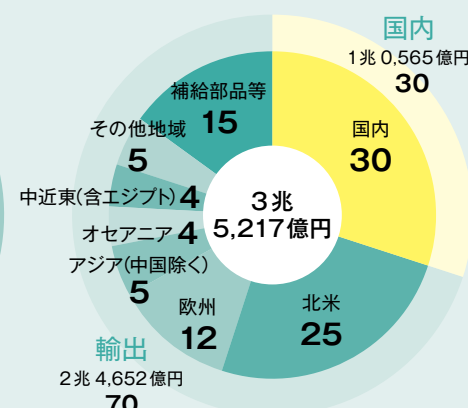
イノベーション委員会
産業の高度化

2025年度
機種別出荷金額構成比 (単位%)



建設機械本体出荷金額 【出典：建機工自主統計】

2025年度
国内・輸出構成比 (単位%)



2兆 4,652億円

詳しくは **日本建設機械工業会**



暮らしをささえる建設機械

How construction equipment supports our way of life

除雪

ホイールローダ、モータグレーダ

畜産

ホイールローダ、ミニショベル

建設資材

ブルドーザ、ホイールローダ、アスファルトプラント、コンクリートプラント、オフロードダンプトラックキャリア、自走式粉砕機、クローラドリル

リサイクル

マグネット仕様油圧ショベル、グラブ仕様油圧ショベル、自走式粉砕機、自走式スクリーン

林業

林業仕様油圧ショベル、トラック搭載型クレーン、キャリア、自走式木材粉砕機

建築・解体工事

油圧ショベル、解体仕様油圧ショベル、クローラクレーン、油圧クレーン、タワークレーン、高所作業車、トラック搭載型クレーン、コンクリートパイプレータ、基礎機械

港湾・荷役

マグネット仕様油圧ショベル、グラブ仕様油圧ショベル、クローラクレーン

護岸・河川・橋梁工事

油圧ショベル、クローラクレーン、フローティングクレーン、基礎機械、キャリア

造成・環境工事

ICTブルドーザ、ICT油圧ショベル、油圧ショベル、締固め機械

道路工事

締固め機械、アスファルトフィニッシャー、モータグレータ、路面切削機、コンプレッサ

生活関連工事

油圧ショベル、油圧クレーン、高所作業車、トラック搭載型クレーン、コンクリートポンプ

トンネル・上下水道

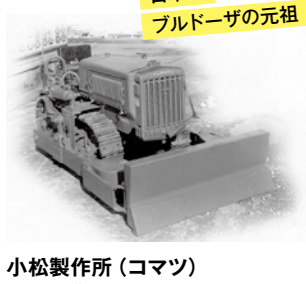
シールド、小口径管推進機械、ドリルジャンボ、クローラテレスコ

建設機械の歴史と変遷

History of Construction equipment



国産初
電気ショベル
神戸製鋼所（現・コベルコ建機）
50K 電気ショベル（1930）



日本の
ブルドーザの元祖
小松製作所（コマツ）
G40 ブルドーザ（1943）
1942（昭和 17）年 12 月、飛行場建設に使用する目的で、海軍から生産要請。



愛知車輛（現・アイコーボレーション）
AC-D4E 穴掘建柱車（1966）
建柱車と穴掘車の二つの機能を一体化。建柱車 AC-D4 の改良版。



国産
ラフテレーンクレーンの先駆け
多田野鉄工所（現・タダノ）
TR-150 ラフテレーンクレーン（1970）
運転席で道路走行とクレーン作業の二つの操作が可能。四輪駆動で悪路にも強くコンパクトでもあるため、狭い不整地の現場にも対応。



世界初 ミニ機
神戸製鋼所（現・コベルコ建機）
RK70M/RK70 ミニラフテレーンクレーン（1989）



環境創造型
建設機械の
先駆け
コマツ
BR60 自走式破碎機（1992）
コンクリート塊などのガラを、その場で細かく破碎、路盤材や建築物の基礎材に再利用にと開発。



国産初
オールテレーン
クレーン
タダノ
AR-5500 オールテレーンクレーン（1998）
国内最大 550t 吊りオールテレーンクレーン。

日本における 建設機械製造あけぼのの時代

第二次世界大戦 前後 ～ 1945
（昭和 20 年）

1945
（昭和 20 年）
～ 1949
（昭和 24 年）
建設機械産業の
再出発



小松製作所（コマツ）
D50A ブルドーザ（1947）
55馬力、重量 8t。戦時中に試作したトラックをベースに開発。故障が多く、その後多くの改良が施される。



日立製作所（現・日立建機）
U05 ショベル（1949）

1950
（昭和 25 年）
～ 1959
（昭和 34 年）
本格的な機械化
施工がスタート



国産第 1 号
機械式クローラクレーン
石川島コーリング（現・加藤製作所）
330 スブローラクローラクレーン（1952）
石川島重工業が米国・コーリング社と技術提携、設立した石川島コーリングが製造した機械式クレーン。



日本初
トラッククレーン
神戸製鋼所（現・コベルコ建機）
10KT トラッククレーン（1953）
10KT（6t）とともに 20KT（10t）を完成させ、警察予備隊へ納入。

1960
（昭和 35 年）
～ 1965
（昭和 40 年）
高度成長期の
日本をけん引



ショベルの代名詞
商品名「ユンボ」
新三菱重工業（現・キャタピラー）
ユンボ Y35 油圧ショベル（1961）
フランス・シカム社と技術提携した新三菱重工業が国産化。現在でもショベルを「ユンボ」と呼ぶ人が多い。



国内初 純国産
油圧ショベル
日立建機
UH03 油圧ショベル（1965）
バケット容量 0.3m³、重量 8.3t。ユーザから高い評価を得、世界各地で活躍する「日立 UH 油圧ショベル」の土台となる。



古河鉱業（現・古河ロックドリル）
HCR200 クローラドリル（1977）
油圧式クローラドリルの国産第 1 号。1983（昭和 58）年ごろから本格的な全油圧式ドリルの時代へ突入。



オカダアイオン PCP-S001
自走式クラッシャー（1987）
解体現場用自走式のクラッシャーとしては国内初。

大型化、高機能化
へ進歩発展
1966
（昭和 41 年）
～ 1974
（昭和 49 年）

1975
（昭和 50 年）
～ 1988
（昭和 63 年）
高度成長から、
安定成長へ転換

2020 時点の展望
（令和 2 年）
建設機械の「新世代化」が進行



日立建機
ZW シリーズホイールローダ（2006）
TCM と共同開発。走行性能の大幅向上をはじめ、操作性・作業性に優れたオフロード法に対応した次世代のモデルとなりました。



新キャタピラー三菱（現・キャタピラー）
CAT793C ダンプトラック（2002）
積載重量 218t、重量 147.4t、定格出力 1615kW の国内最大の超大型ダンプトラック。石灰石鉱山で稼働。



住友建機 SH250-6MH
マテリアルハンドリング機（2014）



建設機械として
省エネ大賞初受賞
住友建機
SH200-5 LEGEST 油圧ショベル（2008）
燃費などの経済性が高く評価される。



コマツ
PC30E-5（2020）
バッテリー駆動式ミニショベル。エンジン駆動式と同等の掘削性能を発揮しつつ、「排気ガスゼロ」や騒音の大幅低減を実現。

CEMA のあゆみ

History of CEMA

年 号	話 題
1990（平成 2）	4 月（社）日本産業機械工業会から分離独立、任意団体として日本建設機械工業会（建機工）を設立 6 月 通商産業省（現・経済産業省）より（社）日本建設機械工業会の設立認可
1991（平成 3）	3 月「独禁法マニュアル」を作成
1992（平成 4）	3 月「建機工の活動と独禁法」を作成 出荷金額統計を作成 需要予測を作成
1995（平成 7）	1 月 阪神・淡路大震災発生・災害復旧支援窓口を設置
1997（平成 9）	8 月 ウェブサイト「CEMA WORLD」を開設 9 月「建設機械の統一安全基準と警告表示に関するガイドライン」を制定
1998（平成 10）	11 月「地球環境保全のための自主行動計画」を策定
1999（平成 11）	6 月「移動式クレーン定期自主検査者制度」を創設
2002（平成 14）	4 月 ウェブサイトを改訂し、会員専用ページを設置 11 月「コンクリートポンプ車整備証明制度」を創設
2003（平成 15）	3 月「建設機械の盗難防止装置に関するガイドライン」を制定
2006（平成 18）	3 月「我が国建設機械産業の将来展望調査研究報告書（2005 ビジョン）」を作成
2008（平成 20）	3 月「地球環境保全のための自主行動計画」を改訂
2010（平成 22）	5 月「日本建設機械工業会 20 年のあゆみ」を発刊
2011（平成 23）	3 月 東日本大震災発生、震災相談窓口を設置 9 月 内閣府より一般社団法人の移行認可
2013（平成 25）	12 月「建設業界の独禁法 Q&A 集」を作成
2014（平成 26）	11 月 調査部を開設
2017（平成 29）	3 月「協力企業との適正取引の推進に向けた行動計画」を策定
2019（令和元年）	12 月 建設機械整備士リクルート用動画を公開
2020（令和 2）	5 月「日本建設機械工業会 30 年のあゆみ」を発刊
2021（令和 3）	7 月 CN 実現に向けた要望とりまとめを提出 同書は適宜内容を見直しの上、22 年以降も毎年提出
2022（令和 4）	11 月 ウェブサイトを全面改訂し、公開
2023（令和 5）	12 月「建設機械業界における物流対策自主行動計画」の策定
2024（令和 6）	3 月 現住所へ移転 12 月「自動・遠隔施工の実用化に向けた建設機械業界の要望」を提出
2025（令和 7）	11 月「建設機械の日（11 月 19 日）」を制定し、記念イベント「KENKI ドリーム DAY」を開催

※ CN：カーボンニュートラル

社会に役立つ建設機械

Construction equipment helping society

プロジェクトグリーン～砂漠をグリーンに変える～

キャタピラー

International Contributions



国際貢献

砂漠における農業プロジェクトに貢献

「プロジェクトグリーン」は、ヌビア砂漠の42万エーカーを農地化する重要事業です。過酷な環境ですが、ナイル川などの豊富な水源があり、灌漑を機能させることが成功の鍵となります。現場では古くからの信頼関係に基づき、キャタピラー認定ディーラーが手配した60台のキャタピラー製の機械が活躍中。この取り組みは地域に5千人の雇用を創出すると推定されており、人々の明るい未来に向け大きな貢献が期待されています。



砂漠に開発中の灌漑システム



プロジェクトグリーンに携わるプロジェクトチーム

現地の人が自分達で悪路を改善できるようにスタビライザー(PM550)工法の技術移転を目指しています。ニカラグアではスタビライザーを3台使用し、技術移転後は自分たちで2,000kmの道路を5年間で改善しました。酒井重工業の社是に「国土開発という社会事業に貢献する」という一文があります。我々は道路づくりという国土開発を通じ、未来への発展に繋がる活動を今後も続けていきます。



世界で活躍するPM550



現地の方と共に行う作業で雇用を創出

現地による悪路の改善を後押し

酒井重工業

スタビライザー工法の技術移転

東日本大震災の復興支援

古河ユニック

Disaster Recovery Support



災害復興支援

三陸漁業の復興支援

東日本大震災で甚大な被害を受けた三陸沿岸の漁業復興のため、古河ユニックでは悪路に強い「ミニ・クローラークレーン」を無償貸出しました。宮城県石巻市では地盤沈下で遅れた漁船の揚げ降ろしや操作説明を行い、メディアでも注目されました。岩手県山田町でも水揚げや資材運搬、操作講習などの支援を実施。この三陸漁業の早期復旧に向けた活動は、年月が経った今も当社の貴重な社会貢献実績として心に深く残っています。

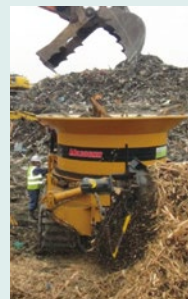


ミニ・クローラークレーンを用いての船の積み降ろし作業の様子(宮城県石巻市牡鹿漁業協同組合)



ミニ・クローラークレーンの操作説明の様子(岩手県三陸やまだ漁業協同組合)

諸岡は、建設や林業、災害復旧で活躍する「不整地運搬車」や「木材破砕機」を製造しています。東日本大震災では、陸上自衛隊による捜索やがれき輸送に資材運搬車が、流木等の処理には木材破砕機が使用されました。さらに熊本地震や北海道胆振東部地震などの大規模災害現場でも稼働し、復興に貢献。今後も得意とするこれらの建設機械を通じ、安心・安全な社会づくりに向けた社会貢献活動が続けてまいります。



気仙沼にて、油圧ショベルと協働し木材がれきを粉砕する自走式木材破砕機



水辺を乗り越え廃材を運ぶ資材運搬車(陸上自衛隊仕様)

建設機械を通して災害復興に貢献

諸岡

東日本大震災、熊本地震、北海道胆振東部地震で稼働

安全・安心な建設現場づくりを支える革新技術

住友建機

Contributing with technology



技術で貢献

AI搭載「FVM3」による接触事故防止と安全管理の高度化

住友建機は労災リスク低減を目指し、周囲の状況を上空視点で直感的に把握できる安全確認システム「FVM」を開発・進化させてきました。最新版の「FVM3」はAI画像解析技術を活用し、安全ベストを着た作業者を高精度に検知します。危険エリア接近時には警報とともに自動で減速・停止し、外部アラームで周囲にも注意喚起します。今後もICTやAI技術を用いて、安心な現場環境づくりに貢献します。

※ FVM(フィールドビューモニター)



危険時に機械が自動で減速・停止(後進・走行時の制動イメージ)

危険時に機械が自動で減速・停止(旋回時の制動イメージ)

独自技術の採用で環境改善

日本ニューマチック工業

Environmental measures



環境対策

油圧ショベルへの負荷低減

日本ニューマチック工業は、独自技術の「ブースタ」を解体機に積極採用しています。これはシリンダ内圧を必要な分だけ増圧させるコンパクトな機構で、シリンダの小径化によるハイスピード&ハイパワーと油圧ショベルへの負荷軽減を実現しました。搭載機は国土交通省のNETISや環境省の低燃費型建設機械に登録され、工期短縮やCO₂削減といった環境改善効果が公的機関に認められています。



ブースタを搭載した小割圧碎機(G200)



ブースタを搭載した大割圧碎機(SV-110XR)



ブースタ搭載小径化シリンダ

安全な施工を推進

古河ロックドリル

インフラを陰から支えるドリルジャンボ

古河ロックドリルは、山岳トンネル工事のドリルジャンボに、3次元のせん孔エネルギーで定量的な地山評価を行う「ドリルNAVI」を導入しています。変化しやすい地質に対し、これを用いることで安全管理や発破の最適化、最適な支保パターンを選定が可能となります。大断面での急速施工を「安心・確実・安全」に行えるこのシステムを通じ、インフラ整備に欠かせない存在として今後も実績を積み上げます。



山岳トンネル施工に活躍するドリルジャンボ



ドリル NAVI ※
※国土交通省のNETIS(新技術情報提供システム)に登録。NETIS登録番号: KK-160012-A

建設機械の部品や車体の再生で資源を循環

日立建機

再生技術を通じて環境負荷の低減と持続可能な社会に貢献

日立建機は資源循環型社会に向け、建機部品や車体の再生事業を推進しています。1960年代から部品再生に取り組み、国内外に再製造拠点を展開。回収部品を分解・修理し新品同等の「再生部品」として供給しています。近年は技術を応用し、油圧ショベル本体の再製造や、作動油の性能を回復させる再生技術も開発。これらは廃棄物やCO₂の削減、低コスト化に貢献しており、今後も高度な技術で環境負荷低減に努めます。



大型の油圧シリンダーを再生



水没から再製造された油圧ショベル

環境調和に向けた取り組み

Initiative for environmental harmony

カーボンニュートラル社会の実現への取り組み

建設機械が排出するCO2の削減見込み

2030年
までに **160万t-co2**

建設機械業界は、建設機械の燃費改善やハイブリッド式を含めた省エネ型建設機械の開発と実用化により、CO2の排出削減に取り組んでいます。今後は効率的な建設機械の利用なども含め、政府や建設施工事業者と一体となって取り組みを進めていきます。

建設機械製造における 省エネルギーの実現

2013年
比で既に **46%削減**

エネルギー原単位(エネルギー使用量/売上高)ベース(2024年実績)建設機械自体の省エネに加え、生産設備や建屋等の更新時においても、不断の省エネ活動に取り組んでいます。建設機械業界は、目標年度である2030年に向けて、更なる削減に取り組めます。

建設機械のリサイクルへの取り組み

リサイクル
可能率

**97%
以上**

建設機械は自動車・家電製品に比べて、リサイクル困難な樹脂部品等の使用割合が少なく、リサイクル可能率(技術的にリサイクル可能な割合:重量比)は現状でも高い値です。

環境創造型建設機械

自走式破碎機開発

近年、建設工事にともなって発生するコンクリートやアスファルトなどの建設廃材を工事現場で破碎して路盤材や骨材として再生する自走式破碎機が開発され、普及してきています。



コマツ BR380JG-3 ガラバゴス

未来に向かって 働く人々の声

もっと見たい! 方はコチラ▶
さまざまな職種、働き方を紹介!



お客様と共に 未来を創る

住友重機械建機クレーン
株式会社
K・R様 2017年入社



大きなモノを売りたいと、建物が完成するまで携われるクローラークレーンの営業に挑戦しています。引き合いから納入、新型機の開発に繋がるマーケティングまで担当する中で、お客様の人生に携わる一世一代の買い物をお手伝いできることが大きなやりがいです。知識はまだお客様に教えていただくことも多いですが、経験を積み、先輩・上司のように信頼される営業マンを目指して日々奮闘しています。

未来世代へのPR

Promotions to Future Generations

「こども・夢・未来フェスティバル」 への参加

アイチコーポレーション

主催: 認定特定非営利活動法人 彩の子ネットワーク

2003年より、地域の子どもたちを対象とした高所作業車の試乗体験会を実施。子どもたちにとって、日常生活では接する機会の少ない「働く自動車」への試乗体験をきっかけに、将来、働くことに対する興味づけ・意識づけに寄与しています。



行列ができるほどの
人気ぶり!

教科書に載っていない体験を

コマツ

2011年5月に発祥の地である石川県小松市の工場跡地に、地域社会と一緒に子供たちを育む場所として、「こまつの杜」をオープン。OB・OGボランティアが主体となり、理科教室や出張教室を開催。教科書には載っていない建設機械の構造などをテーマに、理科やものづくりを好きになってもらう取り組みを行っています。



こまつの杜

地域の中学生を対象にした 職場体験学習

コベルコ建機

地域での友好関係・信頼感の構築を重視し、地域密着のCSR活動を推進する中で、広島市内の中学生を工場へ招いた職場体験学習を実施しています。内容は、開発業務を疑似体験するレスキューロボット製作をはじめ、工場見学、VR体験、油圧ショベルの試乗など多岐にわたります。今回の体験が、当社を身近に感じ、ものづくりの理解を深めて将来を考えるきっかけとなることを目指しています。



ショベルの試乗が
大人気!

京都大・花山天文台へ 高所作業車を寄贈

タダノ

1929年創立の京都大学花山天文台の存続を支援するため、タダノは一般財団法人を設立し、毎年寄付を続けています。このほど、老朽化した本館のドーム施設のメンテナンス用として、電動・屋内高所作業車を寄贈しました。



ドーム型の施設で
高所作業車が活躍!

一から考えて モノをつくり出す それが製品開発の楽しさ

デンヨー株式会社
S・M様 2014年入社



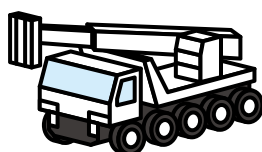
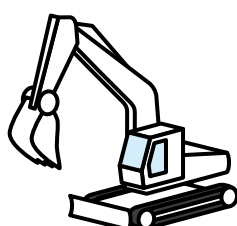
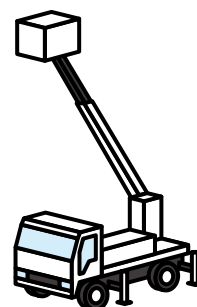
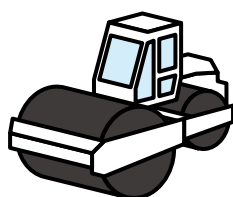
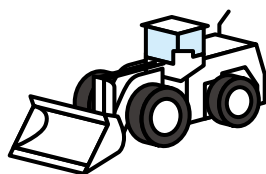
災害時や日常を支える製品に魅力を感じ、この業界を志望しました。現在は新製品開発において、電子システムを機械へ組み込むための板金設計を担当しています。見本も正解もないところから、一から考えてモノをつくり出せることがこの仕事の醍醐味です。仲間と協力しながら幅広い知識を吸収できる環境で、自分が設計した製品が形になる喜びと責任を胸に、日々開発に取り組んでいます。

経験と技術を 駆使して 機械と向き合う

範多機械株式会社
N・Y様 2018年入社



道路の大切さを実感していたことから転職し、現在は関西エリアで製品の納入や取扱説明、機械の修理・点検、見積作成などを担当しています。毎日異なる機械や回路を扱い、多彩な知識と技術が求められますが、力を尽くして修理を終えた時の達成感や、お客様からの感謝が大きな原動力です。未経験からのスタートで苦労もありましたが、現場での経験を次の現場へ活かしながら、日々知識と技術を磨いています。



一般社団法人 **日本建設機械工業会**
〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-20 神谷町MTビル10階
TEL : (03)5405-2288 FAX : (03)5405-2280
URL <https://www.cema.or.jp>

2026年8月現在